

恐るべき正常性バイアス



中国化学株式会社 代表取締役社長 **神津 直**
Naoshi Kozu

昨年7月の西日本豪雨では、当社が所在する広島県呉市も大きな被害を受けました。市内180カ所以上で土砂崩れが発生し、交通網が寸断されてほぼ孤立状態となりました。25の方が亡くなり、1,000戸以上の家屋が半壊以上の被害を受け、広範囲で一週間以上断水になりました。

被害は主に7月6日の夜に発生しました。前日から雨が降り続き、当日朝のニュースで「西日本のどこで斜面が崩れてもおかしくない」と強く警戒を呼び掛けていました。日中も近県の被害報道があり、JRが16:00に運行を停止するなど、明らかに異常な状況でした。

しかしその最中にいて、それほどの危機感を感じていなかったことを不思議に思います。確かに多くの危険情報がありましたが、外の雨は異常なレベルではなく、そんなに大変なのだろうか、という感覚でした。4年前に広島市で大規模土砂災害があり「あんな雨が降ったら、傾斜地の多い呉市はどれも大変」と思っていたにもかかわらず、いわゆる「正常性バイアス」が働いていたと言えるでしょう。

17:30まで通常業務を行い、JR通勤の社員は自家用車に乗り合わせて帰る等の対応をとりました。しかし18時過ぎに50mm/h

を超える非常に激しい雨となり、各地で土砂崩れが発生し始めます。幹線道路が通行止めになり、近くの川でも土石流が発生しました。社員に犠牲者はなかったものの、帰宅途中で身動きが取れなくなり、避難所で一夜を過ごす社員がいました。

避難勧告等の発令が退社後だった(18:10土砂災害警戒情報、18:20~避難勧告、19:40大雨特別警報、21:05避難指示(緊急)等)ので、早期退社の判断は難しかったかもしれません。しかし、通勤に利用する道路が崩落し、近くの住宅地が土砂に埋まった様子を見ると、社員の安全のために、もっと早い行動を取るべきだったと感じます。

根拠なく「大丈夫」と判断してしまう「正常性バイアス」は非常に強力で、多くの情報が適切に与えられても、異常を正常の範囲内だと判断してしまいがちです。これを回避することは難しいかもしれませんが、人間にこのような傾向があることを知り、意識することは有効でしょう。事前に判断基準を作り、それに従った行動を訓練しておくことで、判断エラーに備えることが必要だと思います。

工場の安全対策や経営においても、判断エラーを無くすことは難しいでしょう。正常性バイアスを克服し、認知の限界を考慮して判断エラーに対処していきたいものです。

公益財団法人総合安全工学研究所 理事・監事

理事長 田村 昌三 東京大学名誉教授
(代表理事)
専務理事 小川 輝 繁 横浜国立大学名誉教授
(執行业理事)
常務理事 福 富 洋 志 横浜国立大学名誉教授
放送大学神奈川学習センター所長
常務理事 若 倉 正 英 (国研)産業技術総合研究所客員研究員
(特非)保安力向上センターセンター長

理 事 高 木 伸 夫 (有)システム安全研究所所長
理 事 三 宅 淳 巳 横浜国立大学先端科学高等研究院
副高等研究院長・教授
理 事 安 原 洋 東京通信病院病院長
理 事 谷 質 生 日油技研工業株式会社
川越工場工場長
監 事 河 野 晴 行 (公社)日本煙火協会専務理事
監 事 田 中 保 正 元(一社)日本芳香族工業会専務理事